



みやぎ産業交流センター開館25周年のご挨拶

宮城県知事

村井 嘉浩

MURAI Yoshihiro

「みやぎ産業交流センター」が開館から25周年を迎えるに当たり、一言挨拶申し上げます。

「みやぎ産業交流センター」は、情報、技術、文化等の交流を促進し、県内産業の振興及び県民の福祉の向上に寄与することを目的として、平成7年10月に開館し、「夢メッセみやぎ」の愛称で親しまれながら、毎年約60万人もの方々に御来場いただいております。東北最大規模の展示施設として、その役割を果たしてきているところであります。

平成23年3月に発生した東日本大震災の際は、大津波により甚大な被害を受けたところですが、施設の早期復旧を求める声と関係者の皆様の御尽力により、平成24年7月に施設を再開し、震災からの復興と県内経済の活性化に貢献してまいりました。近年では、全国から約41万人の来場者を記録し県内に大きな経済波及効果をもたらした「全国和牛能力共進会宮城大会」や、県内農産・水産品などの販路拡大を図る「みやぎ食品・飲料販路開拓展示商談会」なども開催され、県内経済の発展に欠かすことができない重要な施設となっております。

しかしながら、昨今の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴う社会経済活動の停滞・自粛により、感染症拡大防止の観点から施設の利用休止を余儀なくされたほか、予定されていた催事のキャンセルが相次ぐなど、施設運営にも大きな影響を及ぼしているところです。今後は、感染症の発生状況に応じた拡大抑制措置と社会経済活動の維持との両立が強く求められていくことから、万全の感染対策を講じた上で施設の更なる利用促進を図っていくことで、コロナ禍からの地域経済の再生に寄与してまいりたいと考えております。

引き続き、県民に愛され続け地域経済の活性化に資する施設となるよう努めてまいりますので、皆様の一層の御愛顧を心からお願いいたしますとともに、指定管理者をはじめとする「みやぎ産業交流センター」の関係者の皆様に感謝申し上げます。挨拶とさせていただきます。

令和2年10月



開館25周年を迎えて

夢メッセみやぎ管理運営共同事業体 代表
一般財団法人みやぎ産業交流センター

理事長 今野 順

KONNO Jun

「夢メッセみやぎ」の愛称で親しまれている「みやぎ産業交流センター」は、本年10月に開業25周年を迎えます。

「夢メッセみやぎ」は、情報、技術、文化等の交流を促進し、県内の産業の振興及び県民の福祉の向上に寄与することを目的に設置されました。平成7年10月に開催された「みやぎインポートフェア」で華々しく開館して以来、大規模展示会等が形態を多様化しつつ開催され、延べ入場者が1,500万人を超えるまでとなりました。これもひとえに施設をご利用いただく皆様はじめ、多くの関係各位のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

私どもの運営で最も大切にしていることは、皆様に安心・安全にご利用いただくことです。この25年の間、大きな事故を起こすことなく役割を発揮することができたことと自負しているところです。平成23年の東日本大震災においても、イベントが開催されておりましたが、建物には甚大な被害を受けたものの、日頃の危機管理への準備を活かし来場者の方々全員に安全に避難していただくことができました。

また、今般は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、国や県の対応方針に沿ってイベントの自粛要請や施設利用休止などを実施しました。施設の利用再開にあたっては、ご利用いただく皆様に安全・安心してご利用いただくため、「新型コロナウイルス感染症防止対策ガイドライン」を策定し、換気対策を始めとする三密の回避、AIサーマルカメラによる検温等の感染防止対策を徹底しております。

25年の間、「夢メッセみやぎ」が立地する仙台港エリアの状況も大きく変わり、大型商業施設や水族館などが次々に開業し、集客力は格段に高まりました。

「夢メッセみやぎ」は、引き続き時代のニーズに対応しながら、これまで以上に宮城そして東北の「人・モノ・情報の交流拠点」としての役割を発揮して参る所存です。

あらためて、これまで「夢メッセみやぎ」を支えてくださった皆様に感謝の意を表しますとともに、今後とも変わらぬご利用、ご来場を賜りますよう心よりお願い申し上げます。